

令和4年度 第32軍司令部壕保存・公開検討委員会  
第6回会合／議事概要

日時：令和4年11月21日(月)  
午後2時～午後4時

場所：自治研修所8階特別研修室

【委員】

法律	玉城 辰彦	ていだ法律事務所 弁護士
経済／観光	下地 貴子	(一財)沖縄観光コンベンションビューロー 国内事業部受入推進課アドバイザー
沖縄戦研究	吉浜 忍	沖縄県史編集委員会 委員長
戦跡文化財	大城 和喜	元南風原文化センター 館長
応用地質学	佐々木靖人	国立研究開発法人土木研究所 理事
地盤工学	伊東 孝	国立大学法人琉球大学工学部 教授
トンネル工学	小泉 淳	早稲田大学 名誉教授
地域振興	宮良 吉雄	首里自治会長連絡協議会桃原町自治会長
平和教育	仲泊 和枝	(特非)沖縄平和協力センター 理事長
情報技術	山田 一誠	(一財)沖縄ITイノベーション戦略センター 専務理事

【事務局】

沖縄県子ども生活福祉部 女性力・平和推進課 / 保護・援護課  
沖縄県知事公室 特命推進課  
沖縄県土木建築部 都市公園課  
沖縄県教育庁 文化財課 / 県立学校教育課  
那覇市 平和交流・男女参画課  
日本工営株式会社

【議事概要】

- 1 開会
- 2 子ども生活福祉部生活企画統括監挨拶
- 3 報告事項
  - (1) 令和4年度の取組等について
  - (2) 意見交換・質疑応答
- 4 議事事項
  - (1) 保存・公開に向けた提言の策定について
  - (2) 意見交換・質疑応答
- 5 閉会（事務連絡）

## **【開会】**

### **○法律 玉城委員長**

- ・ 本委員会の役割等について改めて確認をしたい。本委員会は、令和元年の首里城焼失以降、県民の様々な声が寄せられたことにより、第 32 軍司令部壕の保存・公開に向けて、県の取組に必要な課題及び施策の方向性について、有識者で議論するために設置された。本委員会の役割は、これまでの会合において調査・検討を進めてきた委員意見を取りまとめ、知事へ提言することである。委員の皆様には、今回の会合において提言したき台を、より提言の素案に近い形に仕上げるイメージで議論していただきたい。

## **【報告事項に関する意見交換・質疑応答】**

### **○沖縄戦研究 吉浜委員**

- ・ 詳細調査の中で第 1 坑口がまだ検出できていない。その後、第 1 坑道の延長線が出る可能性があるという発言があるが、この辺がよく分からない。
- ・ 「低速度領域」という表現はどういう意味か分からない。

### **○沖縄県知事公室特命推進課（事務局）**

- ・ 資料 1 の 11 ページの調査結果のとおり、第 1 坑口を対象とした地中レーダー探査では第 1 坑口らしきデータが検出できなかったが、第 1 坑道を、おおむねインテリジェンス・モノグラフと同位置に検出できている。ボーリング調査で正確な位置をさらに絞り込み、位置は平面的な横の位置と、縦の高さの位置を確認することができるので、具体的な延長線を追いかけることで、第 1 坑口の位置の推測ができるものと考えている。
- ・ 低速度領域という文言は、探査手法が地中を伝わる微弱な振動を検知するような調査になっており、地中を伝わる振動が遅い領域を捉えることができる。低速度領域というのは地中で地盤が緩んでいたり、空洞がある場所で速度が遅くなるので、そういったところを捉えることができたということになる。

### **○地域振興 宮良委員**

- ・ 第 1 坑口のボーリング調査は、雑草や木の生えているところは実施したのか。
- ・ 自分の住んでいる地域では、井戸はほとんど埋められていて、湧き水もほとんど枯れてきている状態だが、水質調査は、どの辺の区域で実施したのか。

### **○沖縄県知事公室特命推進課（事務局）**

- ・ ボーリング調査は実施したばかりで、具体的な細かい壕の位置の特定に至っていない。
- ・ 坑口周辺の調査に関しては、公園区域内ということもあり大きな樹木を伐採することがすぐにはできないため、地中レーダー探査を使い、広範囲に探査を実施した。
- ・ 当時のことを覚えている方に話を聞くと、上の方、園比屋武御嶽側からだいが土が崩れてきて、坑口の上に覆いかぶさっているのではないかと、地形も少し当時と変わっているとの証言もあり、比較的浅い部分を対象に坑口が見つかる想定していたが、さらに深い位置に坑口がある可能性が高い。現時点ではそういう判断をしている。

### **○日本工営株式会社**

- ・ 水質調査、地下水調査の範囲は、第 32 軍司令部壕を概ね中心として 1 km × 1 km の範囲で調査を行っている。

### **○情報技術 山田委員**

- ・ 12 ページの真ん中の下のところで、「第 2 坑道内新規落盤発生箇所 令和 4 年 2 月 11 日確認」と書かれているが、今でも落盤は発生しているのか。それとも、過去の落盤をこの 2 月に確認したのか。

### **○日本工営株式会社**

- ・ 令和 3 年 8 月に調査で立ち入り、そのときには落盤していなかった箇所において、令和 4 年 2 月に入ったところ、1 m × 1 m 程度の大きな岩塊が落ちていたのを確認したので、その間に落盤が発生したと言える。
- ・ 基本的には坑道内に支保工という落盤防止の対策工が入っているが、一部、無対策の区間があり、そこで落盤が発生した。支保工が入っているところは今後大きな落盤はないと思われる。これまでに落盤が発生した部分については何ともいえない。

### **○戦跡文化財 大城委員**

- ・ 4 ページの技術検討グループの 3 の(1)、32 軍壕の利活用の仕方について。平和学習だけではなく、地形とか地質、地下水、地質学的な学びもできる、広い視点でこの壕の利活用をしたらよいという意見だと思うが、広げすぎるとこの壕の性格が少し薄れていくのではないかと懸念している。
- ・ この壕は沖縄戦の戦跡としての平和学習の拠点だと 1 点で絞り込んで進めたほうが、より有効な平和学習ができると思う。

### **○法律 玉城委員長**

- ・ 11 ページの一番最初の地中レーダー探査。「探査深度よりも坑口が深い可能性がある」と言われているが、レーダー探査は深度どのぐらいまでを想定したのか。

### **○日本工営株式会社**

- ・ 地中レーダー探査において使用した機械が大体 2 ～ 3 m 程度の深さまでカバーすることができる。当初はもう少し浅いところに坑口が出現すると思っていたが、証言者の話を聞くともう少し深いところに坑口がある可能性があり、このために検出できなかったというところが、「探査深度よりも坑口が深い可能性がある」という文言の意図になる。

### **○法律 玉城委員長**

- ・ インテリジェンス・モノグラフの資料を見ると、多少深いところに第 1 坑口、あるいは第 1 坑道があるのではないかとと思われる。
- ・ ボーリング調査はどれぐらいまでの深さを探査しているのか。

### **○沖縄県知事公室特命推進課（事務局）**

- ・ 深さは、はっきり分からないところもあるので、第2坑道や第3坑道の坑道の高さを基に、それよりも5 m程度深い位置まで探査をする予定である。地表から約 22mを計画をしている。

### **○平和教育 仲泊委員**

- ・ この壕を公開する第一の目的が平和教育であることに異論はなく、第一義的にはそうだと思うが、自然環境とか、地形、地質、地下水など、実際ある事実を全く見せないということではなく、そういう側面も公開することもできると思う。
- ・ 例えばウェブなどで情報発信すると思うが、ウェブのひとつの窓として、そこには地形、地質などの物理的・科学的なところも見たい人が見られるということ載せてよいと思う。

### **○応用地質学 佐々木委員**

- ・ 総合学習的などという意見で、沖縄のこの自然環境がある中で沖縄の暮らしがあり、首里城もできている。首里城がどうしてここにできたかというのは、地形とか、水を得てというような地形条件も関係している。ここに壕ができたことも当然ながら自然条件とつながって、そこで選ばれて壕ができているという経緯があり、自然条件と歴史というのは全然無関係ではなく、その背景があり、その中で壕ができて、戦争の歴史があるというようなことは、歴史を理解する上でも、その周辺を理解すると非常に基礎が深まる。
- ・ 修学旅行生など若い人たちは、最初から歴史に興味がある人ばかりではないので、そういう人たちに沖縄の自然や文化をとっかかりとして歴史に入ってもらい、平和教育につながるという方が、裾野が広がると思う。
- ・ 基本は平和教育。調査結果を有効に活用し、より広く、理解するためのツールとして使えればよいと思う。

### **○戦跡文化財 大城委員**

- ・ 地質学的なものを否定するわけではないが、平和学習ではなく、様々な学習ができる場になると、この地質を見るためだけの見学になってしまう場になるのではないか。
- ・ ここは何でも学習できると宣伝したら、壕の性格の焦点がぼけてしまわないか懸念する。
- ・ 否定はしないが、地質により壕の形とか長さ、構造もある。それはガイドが補足するべきと考える。

### **○沖縄戦研究 吉浜委員**

- ・ 壕がこういう環境の中でできているんだという情報発信、1つのワンテーマで発信するのはよいと思う。

## **【議事事項に関する意見交換・質疑応答】**

### **○沖縄戦研究 吉浜委員**

- ・ 32 軍壕というのは数百あり、司令部壕は1つなので、全て「第 32 軍司令部壕」と表記をしてほしい。
- ・ 1 ページの保存・公開の背景で「熾烈な戦闘が展開された」。この「熾烈」の前に「住民を巻き込んだ」という表現を入れたほうが、より沖縄戦の実相の表現になると思う。
- ・ 3 ページの調査研究事業の中で、真ん中のほうに「鉄血勤皇隊や師範学校生徒等にポイント・・・」、表現が違っていると思う。いわゆる鉄血勤皇隊は師範学校の生徒でもある。「師範学校や県立一中の鉄血勤皇隊」と書いてほしい。
- ・ 5 ページから幾つか散見されるが、「第5 坑口」。これまで議論してきたが、坑口だけではなく、第5 坑道を入れてほしい。

### **○戦跡文化財 大城委員**

- ・ これまでの調査で発掘、収集した物はどこにあるのか。
- ・ 管理人の控え場所、ガイドの待機所、チケット販売所、懐中電灯を貸すところ、あるいはヘルメットを貸す場所ということで、絶対に管理棟が必要になると思う。

### **○沖縄県子ども生活福祉部女性力・平和推進課（事務局）**

- ・ これまでの調査で発掘、収集したものについて、平和祈念資料館で一部保管しているものがある。手元にはないが、リストとしてある。

### **○地域振興 宮良委員（追加意見に係る補足説明）**

- ・ 公開に当たっては安全性の確保は重要になると思う。
- ・ 最近のトンネル工事の技術は進んでいるが、安全性の確保で、錆びない鉄骨やアクリル板などで補強すると、坑壁も崩れずにその状態が見られると感じた。

### **○平和教育 仲泊委員（追加意見に係る補足説明）**

- ・ 3 ページの 11 行目。自分で提出した追加意見だが、訂正したい。
- ・ 32 軍壕が戦争を指令する役割を持っているのであれば、そこで研究するのは「命は宝」とか全体的なメッセージではなくて、当時の日本軍の体制とか、戦争を起こさせた歴史など調査研究を行う必要があると言い換える必要がある。
- ・ ほかの壕と違うので、壕の持っていた歴史とか役割を研究したほうがよいと思う。

### **○経済／観光 下地委員**

- ・ ロードマップは必要。今は公開に向けたロードマップだが、それ以降もやっていくことがたくさんある。それも併せてどのように発信をし、説明して行くのか、具体的なものも必要だと思う。
- ・ 2026 年（令和 8 年）までの予算、もしくは 26 年以降も整備、引き続き資料作成や聞き取りなどが出てくると思うが、大きな枠の中身とスケジュールを教えて欲しい。
- ・ それから肝心なのは予算。県費だけでは難しいと思う。国からの予算など県として調

整をしているのか。

#### **○法律 玉城委員長**

- ・ 財源的な裏づけがないと、計画の進捗状況は図れないのではないかと。県の部局で何らかの見通し、考え方があれば教えてほしい。

#### **○沖縄県子ども生活福祉部女性力・平和推進課（事務局）**

- ・ ロードマップについては、次回の検討グループ会議までに案で示せるように準備していきたい。
- ・ 予算、費用の面は非常に重要なことだと思う。県単独では厳しい状況であり、沖縄担当大臣が来県された際に県の要望として、第32軍司令部壕保存・公開に向けてという項目を入れた。
- ・ どのぐらいの費用感があるのか試算をしていく必要があり、その部分も概算になるが、費用試算をしつつ、委員の皆様を示しながら意見をいただき、財源の確保にも努めていきたい。

#### **○応用地質学 佐々木委員**

- ・ 既に現地でボーリング調査を開始している。修学旅行生を含めた多くの方々が首里城近辺を歩く時に、何か調査をしており、これは何をしているのか、どういう目的でどういうことをやっているのかを広報する。そういうことも非常に重要だと思う。
- ・ 公開を全部終わってから何か始めるのではなく、時間がかかるので、中間でもきちんと広報することは非常に重要。提言の後にも調査をしなければいけないことがあれば、広報していくことも考えてほしい。

#### **○トンネル工学 小泉委員**

- ・ 工事をしていると、何をやっているのかみんな気になる。そういうときに、工事の目的や内容が分かる看板があるだけで大分違う。
- ・ 整備方針の管理棟の話で、展示施設というと物を展示するだけになってしまうので、平和教育のためのセミナーや会議などに使えるような施設としても考えていくべき。
- ・ 2ページ9行目の「絶対的な」という表現がある。もちろん事故や何かトラブルがあってはいけない。しかし、技術的には「絶対」と言い切るのは難しいので表現を考えて欲しい。

#### **○地盤工学 伊東委員**

- ・ 4ページ目、広報・PR活動の「ターゲットを決めて取り組むことにより効果的な情報発信につながる」。このターゲットはどういう方なのか。高校生とか、小学生から一般の方、学生など各ターゲットごとでやっていくのか。その辺があいまいだと思うので、これを明確にしたほうがよい。
- ・ 5ページ目、整備方針で第1坑口・坑道、それから第5坑口を優先的に取り組むとあるが、現在ボーリング調査中で第1坑口・坑道の状況などがこれから分かる。今の段階ではこれしか書けないが、ロードマップでは、令和8年を目指すというだけで、中間が

全く分からないので、調査結果次第でもう少し具体的に、この時期までにこういう整備を進めていくなどを検討してほしい。

#### **○地域振興 宮良委員**

- ・ 5ページ目、段階的な整備・公開のところで、国有地や城西小学校があるので、全体的な坑道は難しいと思う。
- ・ 第1坑道の入り口と40mぐらいの区間でも十分だと思う。

#### **○情報技術 山田委員**

- ・ ロードマップは必要。
- ・ 見せるというところで、首里城を今すごくいい形で見せているので、同じような形で見せてはと思う。
- ・ 現在でも崩落が起きているという状況があれば、どんどん風化が進むと思われるので、早めにデジタルデータ化等をしておく必要がある。

#### **○沖縄戦研究 吉浜委員**

- ・ 第4坑口は、調査をして不明だというのならよいが、ぜひ調査をしてほしい。マップ上に置いているが、一切どこなのか分からないという状況はつくりたくない。
- ・ 3ページ目、文献資料等を活用した平和発信・継承のあり方で、この文脈を見ると、命は宝、戦争を起こさない。このように拡大するのではなく、沖縄戦の実相や32軍壕のいわゆる軍隊の本質等、戦争、軍に関わるものを調査すると書き換えたほうがよいと思う。
- ・ 2ページ目、文化財指定への取組。この文言でよいと思うが、指定する上での条件、価値の問題を前段に触れてほしい。

#### **○戦跡文化財 大城委員**

- ・ 遺物は壕の中だけではなく、壕周辺にも可能性がある。戦争体験者の証言を取りながら、第1、第2坑口周辺に目星をつけて試掘をし、何か出てくれば、マスコミを通じて多くの県民に広がるので、壕に対する県民の関心、機運が高まると思う。

#### **○法律 玉城委員長**

- ・ 知事へ提言するという委員会の役割とも関連するが、提言が終わってもこの体制を何らかの形で継続してほしいというのが強く感じられるので、「推進体制の強化」とでも題して、6ページ目、今後の課題に(4)として追加してほしい。また、ロードマップを適時更新し、事業スケジュールを明確にして、資料として提言書に添付し、こういうことがまだ保存・公開に向けて必要だと示す必要がある。

#### **○沖縄戦研究 吉浜委員**

- ・ 第5坑道は仮発掘であり正式な発掘ではない。きちんと正式な発掘で整理をされているかどうか分からない。壕内の灯りをともす電線はどう引っ張ったのか。壕を構築した

ときダイナマイトを使ったのか。どういう炊事場だったのか。きちんと発掘すればいろいろと分かってくる。

- 第1坑口も発見されたらその周辺の発掘も必要。
- これから探す文献資料というのは極めて少ないと思う。それを十分補うために、新たなものを提示できるのは発掘だと思うので、文化財との絡みだけではなく、発掘は必要である。

(意見なし)

## 6 閉会